

第 6 回 高大連携協議会（機械系）

日時：平成 23 年 2 月 24 日（金）10:00～12:00

会場：宮崎大学機械会議室（機械系）C421

出席者：

工業高校から 6 名（内、校長 1 名、教頭 1 名）

宮崎大学工学部機械システム工学科教員 7 名

進行：釘崎 隆史（宮崎工業）、長瀬 慶紀（宮崎大学）

記録：長瀬 慶紀（宮崎大学）

協 議 内 容

担当

・協議に先立ち、宮崎大学工学部機械システム工学科科長ならびに都城工業高等学校校長より挨拶があった。

1. 今後の高大連携について

(1) 大学で実施しているデザイン科目（科目名：「機械設計製図 I」）への高校生の参加について

① 高校側より、次のような説明があった。

- ・高大連携協議会（機械系）のメンバー以外の高校へ標記の連絡を行ったが、高校生はついていけないのではないかとの意見が出された。
- ・「課題研究」の授業の一環として参加する方向で検討するが、「課題研究」のテーマが決まっている高校もあるので、参加できない高校もある。

② 機械設計製図 I について次のような説明があった。

- ・製図教育の状況について、以前より時間数・テーマ数が減っている。
- ・機械設計製図 I と実習とが並行授業のため、学生全員が使用する工作機械を使った経験があるとは限らない。そのため、安全上職員が加工を行っている。
- ・コンテストとして競わせるものではない。

③ 次のように実施することとした。

- ・実施内容について、デン教員から高校教員へ説明を行う。
- ・高校教員から高校生へテーマ等の説明を行う。
- ・大学でのプレゼンテーションの日程（8 月頃）等を高校へ案内し、高校教員・生徒は可能であれば参加する。
- ・高校で「課題研究」にあわせて実施するプレゼンテーションの日程（1 月頃）等を大学へ案内し、大学教員は可能であれば参加する。

(2) 研究室インターンシップについて

① 意見交換を行い、次のような意見が出された。

- ・受講した生徒が宮崎大学を受験しない場合失礼にならないか、という質問があったが、一般のインターンシップでも本来は就職を前提としていないので、宮崎大学を受験しなくても問題ない。
- ・3 日間で、講義の受講（1 日）および研究室での体験（2 日間）などを通して、大学生活を体験させたい。
- ・大学は講義時間の 2 倍の予習・復習の時間が必要であるため、1 日の講義は 2 コマ程度しか受けられない。3 日間の日程でどの程度大学を知ることができるか疑問である。
- ・1 年生前期に実施している「大学入門セミナー」への参加はどうか。
- ・出前講義や体験入学、オープンキャンパスなどの既存の行事を利用してほしい。
- ・大学の行事は、進路指導宛のため、学科には伝わりにくい状況にある。
- ・体験入学の機械科版があればよい。
- ・インターンシップを実施する場合には、大学側の準備が必要である。

② 次のような方策をとり、高校生に既存の大学行事への参加を促すこととした。

- ・大学の既存行事の案内を工業部会へ連絡する。
- ・工業部会から各高校へ案内を転送する。

(3)その他

①工業高校で毎年実施している「課題研究」発表会への大学教員に対する出席依頼があり、可能な場合には出席することを了承した。

2. 実験室見学

制御（川末）→設計（中西）→材料（池田，木之下）→機力（岡部）の順に研究室・実験室の見学を行った。

以上

<敬称略>